

令和7年度
定時社員総会 記念講演会



一般社団法人 京都発明協会

会員向け講演会

※非会員の方は、定員に
満たない場合にご参加可能です

脱炭素化に向けた ペロブスカイト太陽電池の挑戦



参加費
無料

令和7年

6.17 火

15:45~16:45

京都リサーチパーク内
1号館4階 サイエンスホール

京都市下京区
中堂寺南町134
(JR丹波口駅 徒歩約5分)



脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの拡大は欠かせません。

なかでも、日本発の技術である「ペロブスカイト太陽電池」への期待が高まっています。

政府も技術開発に大きく力を入れているこの次世代型太陽電池の話を中心に、太陽光電池の現状と未来の可能性について、立命館大学 理工学部 峯元教授に詳しく解説していただきます。



<講師>

立命館大学 理工学部教授

みねもと たかし

峯元高志 氏

【お問い合わせ】

一般社団法人 京都発明協会

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134
京都リサーチパーク内 京都府産業支援センター 2階

TEL 075-315-8686 MAIL hatsumei@ninus.ocn.ne.jp

京都発明協会検索

京都発明協会



講演概要



脱炭素化に向けて太陽光発電に大きな期待が寄せられている。

ペロブスカイト太陽電池は日本発の新型太陽電池である。太陽電池の光吸収層（発電層）に利用できる有機無機ハイブリッド材料である $\text{CH}_3\text{NH}_3\text{PbI}_3$ ペロブスカイト薄膜は、塗布プロセスかつ低温で成長可能であり、軽量・フレキシブルな樹脂基板を用いることが可能である。従来の結晶シリコン太陽電池は、高効率・高耐久である一方で重量が $11\text{kg}/\text{m}^2$ であり重くて曲がないのが通常である。

そこで、ペロブスカイト太陽電池によって軽量・フレキシブルが要求される領域への応用展開が期待されている。

一方で、耐久性の課題も残っている。本講演では、ペロブスカイト太陽電池を中心に、太陽光発電の現状と未来について解説する。

講師紹介



峯元 高志 氏

立命館大学
理工学部教授

1976年神戸市生まれ。

立命館大学大学院総合理工学専攻博士課程後期課程修了。博士（工学）。

化合物薄膜太陽電池の高効率化に関する研究で学位取得後、渡米し Institute of Energy Conversion, University of Delawareでのポスドク研究員を経て、2003年から現在まで立命館大学にて太陽電池の高効率化、太陽電池モジュールの屋外実証試験などに従事。

現在は、グリーンイノベーション基金事業を通じてペロブスカイト太陽電池の社会実装に向けた耐久性向上に関する研究を実施中。

2019年からは大学発ベンチャー（スカラズ株）を立ち上げて太陽光発電の研究開発に関するコンサルティングを展開、2020年からは太陽光発電の裾野を広げるための活動としてYouTubeチャンネル「太陽光発電大学」を主宰として運営し、現在も毎週動画を更新中。



YouTube
太陽光発電大学

申込方法



参加費： 無料

定員： 80名（定員になり次第締め切り）

■ 会員の方

定時社員總會のご案内とともに「記念講演会」「会員懇談会」の参加申込書をお送りいたします。（Web申込不要）

会員懇親会（参加無料）

※京都発明協会の会員のみ

時間： 17:00 ～ 18:30

場所： 京都市リサーチパーク内 1号館 1階
レストラン「パティオ」

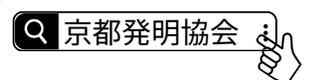
ご参加をお待ちしております！

■ 非会員の方

定員に満たない場合のみご参加いただけます。事前申し込みが必要です。

（Web申込のみで受付）

※京都発明協会のホームページからも申込可能



記念講演会
非会員の方専用
申込フォーム